

る、二冊とも其中の冊子である、前者は軍人傳道の爲めで例へば補正成の宗教とか、繁十郎の奉公とか、忠と他力教とかといふ題を以て、平易に説いて居る後者は聖人の傳を極めて簡潔に述べて居る。

保育者のため

遊戯につきて

松本孝次郎

この一篇は嘗てフレイベル會上に於て成されたる演説の筆記なり

私は餘程以前から子供の遊戯のことを研究して見たいと思ふて居りましたが、御承知の如く幼稚園の仕事を自身でやつて居るのでございませぬからどうも其便利を得なかつたのでございませぬけれども、段々此フレイベル會の幼児研究の組合の方々

に相談致しまして、會員の方々の御經驗を伺ひ、私も亦問題を提出致しまして皆さんの御意見を伺ひなごしてから、次第々々に遊戯といふこと自分の考といふものは段々明瞭になつて参りました、それで其問題に就かしまして自分の自身に調べました道行を申しますと、初には此日本に現に行はれて居ります様な遊戯は、どれ位昔から傳つて居つてどういふ變遷があるかといふことを最初に心掛けて見たのであります、其方で申しますると、現今迄傳つて居る遊戯の行れて居りましたことは、餘程昔からあることとございまして、それで其變遷が政治の方で天皇の権力の御隆んであるやうな時代も、亦北條時代といふ様な武家が跋扈して居たやうな時代も、通じて割合に變りませぬところのものは、子供の遊戯のやうに考へら

れます、時代は非常に變つて行くけれども、其時代の變り方に従つて、何時も遊戯が或時代に行れて速に亡びて仕舞うといふことでなく、子供の世界は永久に續いて居るものであるやうに思はれたのでございます、併しある遊戯の種類は、又當時の時代の影響、即ち時代精神によりて變るのがあります、藤原時代の如きときでありますれば幾らか柔弱であり、武家時代に於けるときは尙武的の遊戯といふ様なものが、非常に發達して居るやうなことの徴候を看ることが出來ます、それでも又もう一つは此人間といふものは、時を經るに従つて段々發達して參りますからして、昔は大人がやりましたことも後世になりますと子供の仕事となつて、今大人がやりますれば到底笑はずに居られないことが幾らもございませぬ、現に徳川時代の

頃に於きましても十八九なる婦人が竹馬に乗つて居ることがありましたが、あゝいふ様なことは現今では女子には見ることは出來ないやうでございませぬ、それで時代の進歩は人間の發達を促して來るものでありますから、大人の子供の昔やりました遊戯が段々變りまして、今は子供丈になつて了ふ、英國のエリサベス時代に行れた、舞踏のやうなものでも、今では全く町の子供に行れて居るやうなことでもございませぬ、さういふ事實は日本の遊戯の中にも見るのでございませぬ、只今お話致しましたのは遊戯に就ての歴史でございませぬ、併しこれに伴ひまして玩具——遊びの道具といふものも漸次に發達致しまして、子供の満足を起す爲に發明せられたるものも多くございませぬ、それで玩具も昔から遊戯と共にちやんと何時迄も傳つ

て居るものもあり、それには何か玩具といふものが、子供の保育のことに利益がなければ世の中に傳つて行くことはない譯であります、其方から玩具といふものが如何なる働きをして居るかといふことを調べて見たのでございまして、其方に於きましては、子供の身體の發育といふ別に利益のありまするところのものと、精神上に利益のありまするところのものとあることを明にすることが出来ました、そうして如何なる種類のものが根本的に是非欠くべからざるものであるかといふことも先づ推測することが出来ますのでございまして、それで玩具の中にも矢張時代精神の影響といふものがございまして、其時代々の精神の爲に影響を蒙つて此玩具の變遷が起りますこともあるのでございまして、されど其根本的の玩具といふものはさ

ういふ變遷の爲には動されてないのでありまして昔から現今に至つて傳つてあるものがあるといふことが分ります、でさういふ遊戯玩具の歴史の側から見ました方も有益な結果があつたと思ひますが、次には此遊戯といふものを心理のほうから見ましたところの考へと、もう一つは教育の方の側から考へました、即ち如何なる心の働きから子供は遊戯がしたいやうなことが起つて來るであらうか子供の天性として果して遊戯を好むものであるかと心理の側から研究も試みましたが、又教育上遊戯といふことがどれ程益があるかといふことも考へて見ました、其結果は矢張遊戯は立派に利益があるのであつて、精神及び身體の發達といふものには、欠くべからざるところのものであるといふことも知ることが出来ました、それから次には遊

戯に就きまして、フレール氏の方案になつて居りますところの方法を日本でも採用致しまして幾分かこれに日本流の考を入れて、現に皆さん方がおやりになつて居りますが、これ等も後々に至ると外國初め我國でも、段々經驗が集るに従つて色々變つて參ります、それが自然に變はるのでなく、幾らか幼稚園の事業に従事して居る方々が、どういふ様な風に變へて往つたら宜いか、如何なることが不満足であるかといふことを考なければならぬ、といふことを考へまして、其方から幾らかの問題の研究方を組合の方々にお話致しまして研究して戴きましたのでございます、さうしてこれが私の研究の上から見ますと第三段でございます、まず、應用する方の範圍の事柄でございます、それで今日は其種類の或一つの事柄を申して置

ませう、
 で此研究組合の方々に私がお尋ね申したり、又御觀察を願ひましたのは、或一つの紙を兒童に渡しまして、其紙を以て何なりとも子供自からの發明に係るものを作らして呉れといふことを申しました、其紙の形は四角なものばかりでなく、三角なものも用ゐて呉れるといふことを申しました、其四角な紙と申しますと、御承知の如く始終幼稚園で使つて居ります形でございますけれども、三角といふ方は實際餘り用ゐぬところの形でございすから、其兩方に依つて子供の發明といふことを知りたい考で、此問題を提出致しました、で、其問題に就きましては、皆さん方がおやりになりましたもの、標本は現に彼の處に陳列してある華族學校の中にあります、さういふ風に子供に作ら

して、私は自身にこれを研究しました、元來心理學者の段々研究して居りますことに據りますと、子供の時分は大變に想像の働きが鋭くて、却て智識といふ方は鈍いので、まだ發達して居りませぬ、初めに子供が馬が欲しいといふときに、子供自身は竹の棒の上に跨つてつれで馬に乗つたりとして表を駆け歩いて居る、能く考へて見ると、竹の棒で決して馬でないのでございしますが、併しそれを馬であると思つて喜んで乗つて居るのは、矢張竹の棒を馬である様に想像が附くからであります、で馬と全く違つて居る様に見えても竹の棒には乗りますけれども、併し外のこつぷとか茶碗の如きものに乗らない、されば違つて居ることは違つて居るが、其中でも幾らか似て居るところがあつて、乗つて見ることが出来るといふ丈は同じ

なところがあると思ひますからです、さうしますと初めの竹の棒で満足して居る時分は、丁度竹の棒が馬である如く想像して駆け走つて居ります、然るに少し經ちますといふと、段々それ丈では満足しない、もう少し馬の恰好が欲しいといふところから、先づ或子供は何か飾を附けまして馬の頭である様に拵へて、それで意氣揚々として居るところが、今度は似て居ると云つても、實際に似て居るのは頭丈で、身體其外に似たところがない、もう少し似た様にして欲しいといふ様になつて、終には全く馬の形をしたものでなければ満足は出来ぬといふことになるのであります、それから子供の想像で、初めは粗末な形で満足して居たものが、次第々々に精密に至ることになつて居る、丁度一番精密になつて参りますと全く馬の

形になりませ、それは博物の稽古に標本を子供に與へまして、これは馬であると言つて標本を見せるやうに、實際に社會にあるところのものを標本として玩具で見せて居るのであります。それでありますからそこまで行詰めれば、多くの玩具は社會の準備と言つても宜い様な目的を有つ故に、遊戯が其自然の智識で馬と類似の點が澤山なければ承知しないといふ様になれば、想像の働きは次第に減つて、智識の方が殖へて來たのであります。さうして見ますると、初めは子供の想像といふものを多く働せる玩具をやつた方が宜いか、又想像の働きはさう使はないでも精密に馬の觀念を與へるものをやつた方が宜いか、何方が宜いかといふことは餘程大問題であらうと思ひます、で精密なものをおたへれば子供は其類似を求める想像作用

を發達することが出來ぬから、寧ろ粗末なる玩具を與へる方が宜いかどうかといふことは、此子供のことを研究する人に就ての大問題になるのでございませ。此ことからして、今度は其玩具を如何様に取扱つて行かなければならぬかといふことを定めるのが必要になつたのであります、それでさういふことの研究の結果と致しましては、子供の發達といふものが本統に十分になるやうにしやうといふには、子供が満足をする様にどこまでも與へなければならぬ、けれども其數には制限がある、小兒には其數を制限して置かなければならぬといふことがあります、それからもう一つは、さういふ様な想像を働かせる玩具を與へる必要がある、それで其事が幼稚園でやる事業の様ではどうなつて居るかといふと、幼稚園でやりまするところの

仕事の上では、初めに幼稚園に来るところの子供は、未だ智識が十分に進んだといふ譯でなく、想像作用を働かす必要のある時代の者が、幼稚園には来るのではないかと思はれる、それで幼稚園には其想像作用を働かすところの方法として、何れ丈の物が備つて居るかといふと、幾らか吾々の考では不満足であります、さういふものに向つて如何にして子供の教育をさせることを致さうといふ考で先程お話しした様に紙を興へて、子供の想像にあるものを拵へさせて見ることをやりました、其紙の問題に就きましての結果を見ますと、彼處に陳列してございます様な風で、大人のとて思ひ及ばないことがあつて、三角の紙を折りましては鳥であるやうに致しましたり、或はそれを蛙であるやうな風に致しましたり、種々の動物や或は其家

の中にある道具のやうなものを澤山作りました大人から見れば實物と同じところは殆どないと言つて宜い、幾分か形が似寄がある位であります、さういふ違つたものであつても、それを何か或物の名前を付けてさうして見て居るといふのは、子供の想像作用に訴へてさういふ名前を付けて居るのであります。さればあゝ云ふ遊びは、子供の想像を働かせることが出来ることになりはせぬかと思ひます。

そこで丁度此世の中のことは何でも分業させる必要がある、フレーベル氏の恩物でもさうなつて居りますが、分業が必要でございます、恩物であつても同じやうな働さをさせてはいかぬそれ／＼違つて働さをさせて分業させてやるやうになつて居ります、それは縦令積木のやうなものか、板を並べ

まするやうなことがあつて、形の方に關係を致し
 まするところのものを與へる方には便利がござい
 ますけれども、動物植物の如きものを與へやうと
 すれば不便であります、あゝいふものを、以て動植
 物の組立といふものは、旨くは出来ませぬ、遂に其
 形が違うのであります、それでありますからして、
 さういふ天然の動物植物に關係を致しましたやうな
 ものは、却つて紙で折ります方が多くの便利が
 ありはせぬかと思ひます、それで初まりは、大要を
 能く知らせる様にして、後には段々實物に近いや
 うな形にする、それで紙でございしますと、丁度
 板を並べますのと積木との中間の性質を有つて
 居ります、何故と申しますと、紙を折つて下に
 置きましますならば、これは平面圖であります、若
 し又一つの鳥などを紙で折りますれば、これは立

體圖であります、例へば蛙であるとか鶴であると
 かいふものを折りますれば、これは立體の性質を
 有つて居ります、でありますから、紙でやらせま
 すれば兩者の中間にあつて、心の働きを養ふこと
 が出来ます、それで只今お話ししたやうな風に、幼
 稚園にては、想像作用を餘計働すといふ目的の爲
 には、斯ういふ紙で以て仕事をさせますることが一
 つのよき方法と思ひます、これが爲に色々の工夫
 を致しますれば、教育上必要なる事柄に向つての
 研究といふものが出来ることと思ひます。
 それで私は猶應用といふ種類の研究は、能くやつ
 て見たいと思ひますので、願くは此ふれいべる會
 に御關係のある方々は、幼児研究組合の方の方々と
 御一緒になりまして、現今猶不完全なところの
 點を充分満足に致しまするやうに、猶大きく申し

ますればふれーべる氏の言に従つてやつて居りまする幼稚園の仕事を、其不足を補つて行きたいと思ひます。又只今のお話に依りますれば、段々皆さん方の將來に於ての事業は有望であるといふことは、勿論明なることでございますけれども、猶此お話に附加へて喜ばしいことのお話を致しますそれは近來東京府下に於きまして、貴族院議員等の資格を有て居ります華族方がお寄集りになりまして、子供に關した話をお聞きになるのでございます。それで其方々が私のお話を聞きになりまして、其方々の仰しやるのに、實は自分達はこれまで子供のことに就いては智識のないものであるから、可愛がる餘りに役に立たぬことでもあるやうではならぬから、子供のことを能く知るやうにして、さうして子供の保育の利益になるやうにし

たいといふことで、その御夫人方お嬢さん方までが御希望でお話を致しますが、段々世の中の人が斯ういふことに重きを置かれるやうになりますれば、従ひまして幼稚園の事業の方のことが、どの位有益有用なることかも知れ渡ることは、喋々申上ぐるまでもないことと思ひます、斯ういふ事情でございいますから、益々皆さん方は此御研究に力を盡されんことを希望致します。

東京便り

▲「夕暮は夏のものなり都鳥」げに夏の夕ほど心行くものは候はじ堪えがたかりし晝間の暑さも一掬の涼しき夕風には名残もなく忘れられ候。山河近き邊りの住居のゆかしきこと、四季何れと申さるれども、夏の景色は又殊更と存じ候。露白し槇の上